



NO.20 令和5年4月1日

かけはし

編集

(広報委員会)

赤池、渡辺、菊川、
原口、藤巻、佐藤、久保

事務局

所沢市こども未来部

青少年課

TEL 2998-9103



小学生の交通事故を減らそう！

小学生の 交通事故防止！

小学生の交通事故で、一番事故に遭いやすいのはやはり一年生です。六年生と比べると約3・7倍の差があります。新年度を迎え、新一年生を交通事故から守るためにはどうしたらいいか皆さんで考えてみましょう。

小学生の交通事故の状況をまず考えてみましょう。事故での重傷者並びに死者は学年が上がる毎に減少していきません。事故は横断歩道を渡っているときに多発しています。また学年が低いほど歩行中の事故が多くなり、高学年になるに伴い自転車での事故が増えてきます。

それでは子ども達に事故防止に教えてあげられる事は何でしょうか？

横断中の事故が多いため、
①歩道橋や横断歩道がある場合は必ずそこまで行って渡る。
②横断する前に必ず止まって、左右をよく見る、車が止まっていることを確認する。

③横断歩道ではしっかり手を上げ運転者に顔を向け渡る意思を示す。

④信号が青の時でも必ず左右の確認をして車が止まっていることを確認する。

⑤横断中も左右を確認する。



交通事故防止のために
我々大人が出来ること

子どもと大人では身長が違いますので目線が大きく異なります。子どもの目線では道路脇に止まった車や、塀や生け垣、立て看板などがあればなおのこと見づらくなります。

お子さんと一緒に通学路などを一緒に歩き、子どもの視点から交差点や横断歩道、見通しの悪い場所などの危険箇所を確認して安全な歩き方を考えましょう。

子どもの目線で
確認してみよう

子ども達に事故防止を教えるためにはまず、周囲の大人が普段からお手本になることが重要です。子どもが見ているところで、信号無視をしたり、横断歩道が近くにあるのに、別の場所を渡ったりしたことはありませんか？子どもは大人の真似をします。子どもがルールを守って安全に道路を渡れるようにするには、大人も交通ルールを再確認し、交通ルールを遵守しましょう。

(藤巻)



地区だより 富岡地区



富岡地区は富岡中学校区の富岡小、中富小、西富小で構成されています。小学校の給食に地元の野菜が使用されたり、中学校の職場体験で農作業に携わるなど豊かな自然環境と地域のつながりに裏打ちされた様々な取組が行われています。

自治会や子ども会の行事も活発に行われます。春のキックベースボール大会。夏祭りでの子どもみこし。秋には自治会対抗の体育祭。冬のドッジボール大会。三世代まつり。こうした行事を通して地域の大人や違う学年との交流を深める事は、子どもたちの心身の発達や社会性の向上の一助となる事でしょう。

残念な事にコロナの影響でほとんどの行事が中止されていますが、3月開催のウォークラリーは多くの参加者でにぎわいました。

(原口)



ウォークラリーの様子

令和4年度 活動アピール



◆研修会

9月14日、NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク理事長 草場澄江氏をお招きし、子どもが抱える問題と地域の支援について、研修を行いました。

◆視察研修

研修を受け、所沢市の支援活動を知りたいということで、所沢市社会福祉協議会のご協力を得て、12月に各地区ごと、子ども食堂、フードパントリー、学習支援、多世代交流の場を見学させていただきました。

子ども食堂はコロナ禍で減少してはいましたが、少額でも美味しい食事が提供されていました。また、コロナが落ち着くまでフードパントリーとして食料品やお弁当等を配布しているところも多くありました。

配布物は、社会福祉協議会からの支援や企業からの提供、農家さんや施設からも提供されています。活動している方はボランティアで、皆さん笑顔で接していて、相談に乗っていたり、登録している人が来ないと連絡をとっていた

りと物品の受け渡しだけでは、ない心配りと関係性を感じました。

その中で、コロナ禍で子ども食堂からお弁当配布にしたところ、補助が出ないので資金繰りが大変という声も出てきました。子ども達に手伝って欲しいという声もありましたが、私の見学させていたところでは、親に代わって中学生が受け取りに来ていたところでは、親に代わって家が何件かあったので、学校での知り合いと出会いたくはないのでは、とも思いました。

子ども達が健全に育つために力を注いでいただいているボランティアの方々感謝します。学校でもこの様な活動がどこで受けられるのか知っていたら、必要な子どもにこの様な居場所や提供を受けられることを伝えていただけたらと思います。

学習支援については次の機会にご紹介したいと思います。

(菊川)

ボランティアとして参加している青少年育成推進員から活動の紹介をします

●とこパン山口

企業や地域の農家さん等から食料品や野菜を頂き、民生委員やボランティア、社会福

祉協議会とも協力し、毎月一回の食料品配布を行っています。事前に申し込みして頂いたひとり親家庭等を対象に、山口まちづくりセンターまで取りに来て頂くことで子ども達と顔を合わせたり、保護者の相談に乗ったりと交流の機会としています。

皆さんが喜んでくれる顔を見るのはとても嬉しく、これからも子ども達の居場所作りを心を配っていききたいと思えます。

(柴田)



フードパントリーの準備の様子 (とこパン山口)

●元気塾 (和田小学区)

子ども食堂は、地域の方々、小学校の保護者など、年齢を超えたスタッフで、現在は月2回活動しています。

コロナのため、活動が限られています。子どもたちが笑顔で参加できる場を目標にしています。

地域全体で、子どもたちを応援していきたいと思っています。

(菊谷)

◆青少年の非行・被害防止(7月)健全育成(11月)街頭啓発キャンペーンに協力

7月9日・11月12日に、所沢駅周辺で1600組の啓発物品を市民に配布しました。

中学生のジュニア推進員も運営協力をしました。(所沢市・青少年育成所沢市民会議共催)

◆「家庭の日」推進事業

2月4日、夏休みに応募された「夢・希望・家族」についての作文408点のうち、優秀作文30点の表彰式が新所沢まちづくりセンターにて開催されました。(所沢市・青少年育成所沢市民会議共催)



表彰の介添え、会社と活躍したジュニア推進員

◆新小学1年生に記念品配布



ミ二所沢郷土かるた

明るく楽しい家庭づくりのため、「家庭の日」推進事業と

して記念品を配布しました。今年から家族で楽しみながら所沢を知ることが出来る「ミ二所沢郷土かるた」に変更になりました。(市民会議共催)

本の紹介



今回は保護者の皆様と中学生に読んで欲しい小説を一つご紹介します。



『かがみの孤城』上下巻 (ポプラ文庫) 辻村深月/作

学校での居場所を失った中学生のころ。ある日部屋の鏡が眩しく光ると鏡の中に引き込まれた。そこには孤城。中にはオオカミの面を被った少女、オオカミ様とところを合め7人の中学生がいた。皆で願いが叶う鍵をさがすことに…。

(菊川)

編集後記



困難な局面こそ、サッカー日本代表のように献身と勇気をもって乗り越えて行きましよう。

(久保)